

2025年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏名
人間健康学部 人間健康学科	助教	正岡 元
最終学歴	学位	専門分野
広島大学大学院総合科学研究科博士課程 後期単位取得退学	博士（学術）	情報通信ネットワーク

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

【理念】

知識そのものではなく、それらの知識を見つけ出す、あるいは作り出す方法を学生が身に着けられるような教育を目指す。

【目標】

知識そのものではなく、それらの知識を見つけ出す、あるいは作り出す方法を学生が身に着けられるような教育を目指す。中でもコンピュータの演習科目では、コンピュータを利用する意義の理解を深めることを目標とし、技術だけでなく技術を使って何をしたいかを意識することを重視し、操作方法の習得に偏らないようにする。

【方針】

毎回の講義の冒頭で講義の意義、当該回の内容について示し、科目を学ぶ意義を確認することで目的意識を持たせる。

基礎演習ではグループディスカッションの回を設け、学生同士で会話をする時間を通して友人関係の構築や学生同士での相談などができるような関係づくりを行っていく。今後登校した際にすぐに友人関係を築き、キャンパス生活を始められるような環境作りを他の教員とも協力し合って行っていく。

【計画（方法）】

アカデミックスキルズでは、毎回配布資料を基に文法や構文などの解説を行い、事後学習としての課題や、授業の翌週に小テストを実施して理解度を確認する。さらにその翌週に結果を返却して内容の解説を行い、記憶の定着を図る。また定期的に過去の小テストの振り返りテストを行い、理解度を再確認する。

プログラミング演習では、プログラムを作成して何をしたいか考える機会を設け、かつ実際に動くプログラムを小課題として多く取り入れることで、達成感やものづくりの楽しさを体感できるようにする。

○担当科目（前期・後期）

（前期）

アカデミックスキルズ、PC・ネットワーク入門、AIリテラシー、基礎演習Ⅰ

（後期）

プログラミング演習、データリテラシーⅠ、基礎演習Ⅱ

○教育方法の実践

方針に沿って計画通りに実施したほか、授業内でアンケートを取るなどしてフィードバックを得て、授業の進行や内容について修正し、学生の理解度の向上や、より興味に沿った授業内容の実現に努めた。

○作成した教科書・教材

- アカデミックスキルズ 授業用資料第 1 回～第 15 回（蒔田先生と共著）
- アカデミックスキルズ 配布資料第 1 回～第 14 回（蒔田先生と共著）
- アカデミックスキルズ 小テスト第 1 回～第 15 回（蒔田先生と共著）
- プログラミング演習 配付資料第 1 回～第 15 回
- OS とプログラミング 配付資料第 1 回～第 15 回
- AI リテラシー 授業用資料第 1 回～第 7 回

PC・ネットワーク入門、データリテラシー I 教科書『コンピュータリテラシー 2025』高木先生、杉谷先生と共著

○自己評価

アカデミックスキルズでは、主担当の蒔田先生と共同で昨年度の振り返りを行い、授業内容を本学の学生に合わせて修正するなどした。資料や小テストなども改訂を行い、より必要な内容で、理解度や定着度を高められ内容にし、昨年度より理解度を向上させることができた。

その他、おおむね理念に基づいて目標を達成することができたと考える。

II 研究活動

○研究課題

メディア授業の支援のための LMS 管理手法の研究

○目標・計画

【目標】

本学では Microsoft Teams をメインの LMS とし、一部の授業では Google Classroom を使用している。Microsoft Teams では、チームは作成されるものの、チャンネルや課題の管理は教員が個人で行う必要がある。Google Classroom では、コースの作成も教員が行う必要がある。そこで本研究では、Microsoft Teams のチームやチャンネルの管理や、Google Classroom のコースの管理など、教員のサポートを行うシステムの開発を目指す。

【計画】

今年度はおもにコミュニケーションに関して Microsoft Teams と Gmail とを連携する機能の強化を行う。具体的には、Google の API および Microsoft Graph API の調査を行い、Gmail から届いたメールを読み出す機能と Microsoft Teams のチャットにメッセージを送る機能のプロトタイプを作成する。

まず、Gmail の API を利用してメールの中から新着メールをより分け、その中から必要なメール、たとえば任意のキーワードを含むメールを取り出す。

また、メールに含まれる様々な多くのメタ情報の中から指定された最低限の情報（たとえば差出人、宛先、件名、送信日時など）を取り出す。これらの機能を合わせて、必要なメールのみを取り出す。

さらに、Microsoft Graph API を利用して Teams のチャットにメッセージを送る。

これらの機能それぞれのプロトタイプを作成する。作成したプロトタイプをもとにプログラムのモジュールを作成し、それらを結合してツールを完成させる。

○2018年4月から2026年3月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

（学術論文）

（学会発表）

（特許）

（その他）

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

○所属学会

情報処理学会

○自己評価

Gmail と Teams とを連携するツールは完成し、また当初の計画とは異なる、Microsoft Power Automate を利用した連携手法のプロトタイプも実現し、おおむね目標を達成できた。

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

【目標】

知識や経験を活かして大学運営に貢献する。

【計画】

学内委員会および学部内ワーキンググループなどにおいて、経験や ICT に関する知識を活かして提案を行い、目標の実現に貢献する。

○学内委員等

学術情報センター運営委員会委員

○自己評価

学内委員会などにおいて、ある程度の成果を残すことができ、ほぼ目標を達成できたと考える。

Ⅳ 社会貢献

○目標・計画

【目標】

研究成果を公表し科学の発展に貢献する。

【計画】

○学会活動等

○地域連携・社会貢献等

○自己評価

研究成果を公表できず、目標を達成できなかった。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

VI 総括

研究ではある程度目標を達成できたが、その成果を公表するには至らず、社会貢献の目標は達成できなかった。また、体調の悪化により後期の途中から授業を担当することができず、教育活動においても目標を達成できなかった。体調の回復に努め、研究成果を公表することが今後の課題である。

以 上